

# 7月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
もも		6,582	104	6,106	517	98	507	0	0	中心地である山梨・福島ともに生育ペースは前年同様に大幅に前進している。着果状況も良く、6月中旬には山梨の露地早生品種が始まった。下旬には「日川白鳳」が出回り、7月に入ればすぐに「白鳳」も始まる。福島産も7月下旬には主力品種「あかつき」がピークを迎える見込みであり、月通じて出回りは潤沢。前年は7月に入ってから天候不順で山梨産の出荷が伸び悩み高値基調となったが、今年は下旬にかけて価格の下げ幅が大きくなるかもしれない。
おうとう		246	90	598	1,692	109	1,446	119	49	平年よりやや早い理想の展開となっている。6月に廉売されることで遍くいきわたり、7月としては平年より少なく高い展開と予想される。7月にいかに品質の良いものが出荷されるかがカギである。
ぶどう類		1,446	101	1,312	1,041	99	1,029	770	53	デラウェアは島根産が小房傾向で箱数が伸びず、前進した反動で6月中旬から少なくなった。中旬から山形産が始まることで落ち着いてきたが、引き合いは堅調。大粒系品種は引き続き山梨、長野のハウス物中心。7月中は選挙などの影響もあって贈答需要は低迷気味だが、中元や旧盆需要も下旬にかけては需要が出てきてテンポ良い販売が期待されている。シャインマスカットは引き続き前年を上回る入荷見込みだが、引き合いは堅調なまま。長野産巨峰は有核から無核への切り替えが進んでおり、入荷量伸びず。
メロン類		4,478	107	4,452	368	106	368	1,553	35	空梅雨から猛暑の7月となれば、すいかも含めて荷動きが活発になると予想される。着果時期の5～6月前半も晴れて、生育が前進しているため、突然切り上がり早まるといった展開も予想される。前年は関東産は少なく、東北・北海道産もやや不安定体であったが、今年は産地市場の高値傾向が予想され、東京市場も前年並みのしっかりとした価格で販売されると予想している。
すいか類		14,842	やや上回る	14,043	154	106	166	4,240	29	千葉・鳥取ともに生育は順調で若干前倒し気味の出荷が続いている。6月中旬から千葉の露地物がピークとなり、鳥取産も月末にかけてピークを迎える。7月上旬からは山形・長野産の出荷も始まり、中旬以降は東北産中心の出回りが予想される。各地ともに天候は良く、昨年のように干ばつによる小玉も無いことから、出回り量としては前年をやや上回る見込み。ラニーニャ現象による猛暑も予想されており、夜温の高い状態が続けば引き合い強まって前年を上回る価格も期待できる。